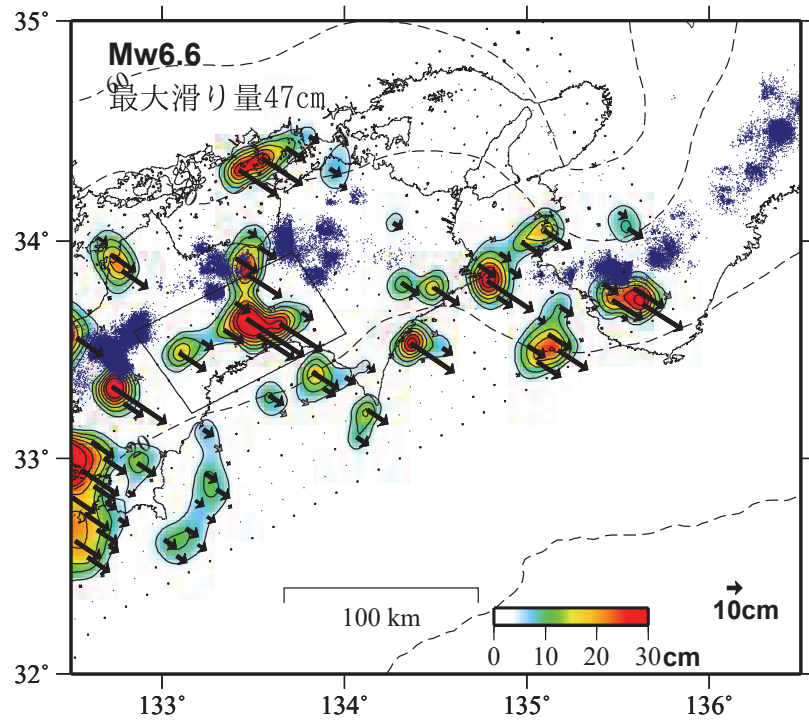
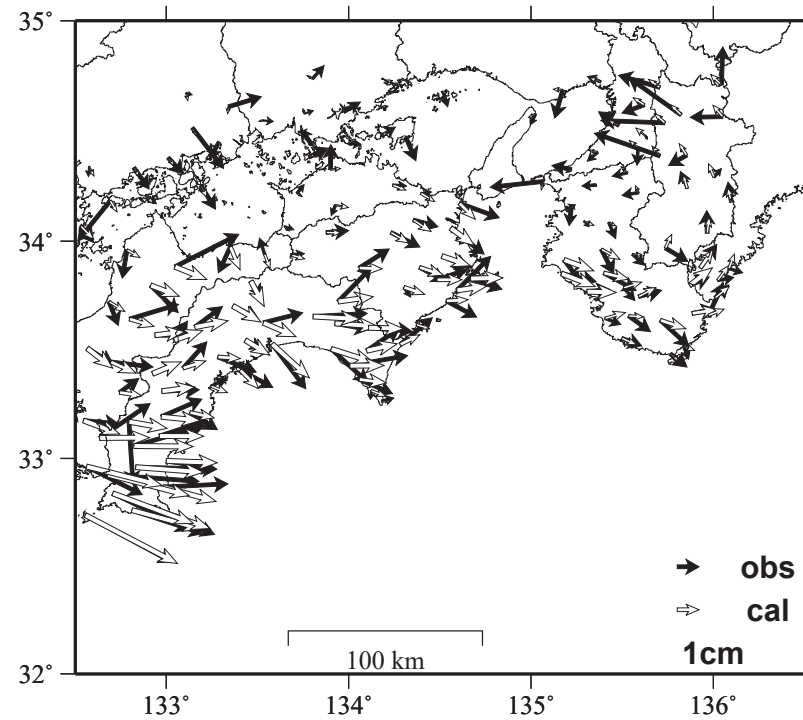


GNSSデータから推定された四国中部の長期的ゆっくりすべり（暫定）

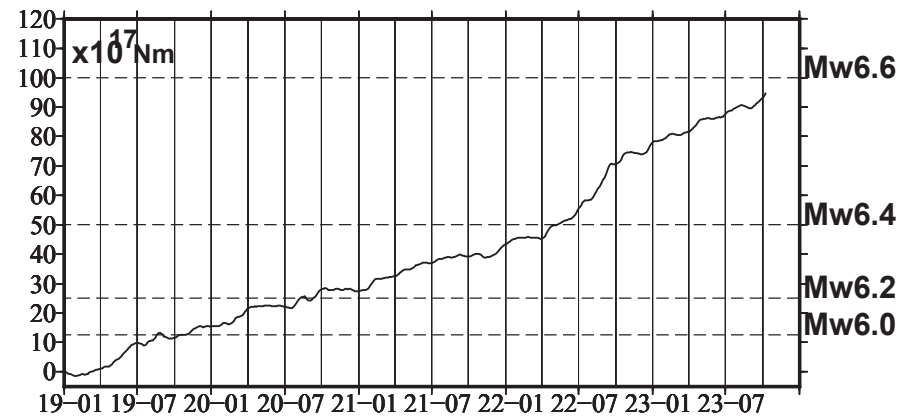
推定すべり分布
(2019-01-01/2023-10-10)



観測値（黒）と計算値（白）の比較
(2019-01-01/2023-10-10)



モーメント*時系列（試算）



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載。
すべり量（カラー）及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示す。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色で表示している。
使用データ: GEONETによる日々の座標値(F5解、R5解)
F5解(2019-01-01/2023-09-30)+R5解(2023-10-01/2023-10-10)
トレンド期間: 2017-04-01/2018-04-01(年周・半年周成分は補正なし)
モーメント計算範囲: 左図の黒枠内側
観測値: 3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値
黒破線: フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al., 2008)
すべり方向: プレートの沈み込み方向に拘束
青丸: 低周波地震(気象庁一元化震源)(期間: 2019-01-01/2023-10-10)
固定局: 上対馬

- *電子基準点の保守等による変動は補正済み
- *平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震及び平成28年(2016年)熊本地震の粘弾性変形は補正している (Suito, 2017, 水藤, 2017)。
- *気象庁カタログ(2017年以降)の短期的SSEを補正している。
- *共通誤差成分を推定している。
- *モーメント: 断層運動のエネルギーの目安となる量。